

土木積算システムにおける 横浜市週休2日の補正計算について（その6）

令和7年7月1日基準からの横浜市週休2日の補正を行う場合の労務費、間接工事費（共通仮設費率及び現場管理費率）は、土木積算システムでは、以下のとおりに積算されています。

1. 労務費

週休2日の補正を行う場合、労務単価について週休2日の補正係数を乗じた補正済み単価を算出しています。

$$T' = R \cdot s \quad (\text{小数点以下切捨て})$$

T' ：週休2日の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

s ：週休2日の補正係数

労務費には「夜間工事による労務単価の割増」による単価の補正があります。今回の週休2日の補正と「夜間工事による労務単価の割増」を同時に適用する場合、補正単価は以下の式により算出しています。

① 「夜間工事による労務単価の割増」が一括割増の場合

$$T' = T \cdot s = R \cdot k \cdot s \quad (\text{小数点以下切捨て})$$

T' ：週休2日の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

T ：労務割増の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

k ：労務割増（1時間当たりの割増率）（一括割増率）

s ：週休2日の補正係数

② 「夜間工事による労務単価の割増」の場合

$$T' = T \cdot s = \left\{ R \cdot \alpha \cdot K + \frac{(R - R \cdot \alpha) \times (1 + 0.0625h2) \times 8}{8 + h1} \right\} \times s \quad (\text{小数点以下切捨て})$$

T' ：週休2日の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

T ：労務割増の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

$$T = R \cdot \alpha \cdot K + \frac{(R - R \cdot \alpha) \times (1 + 0.0625h2) \times 8}{8 + h1}$$

R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

α ：割増対象賃金比（構成比）

K ：労務費調整係数

$h1$ ：所定労働時間外の超過時間（時間外）

$h2$ ：所定労働時間内の20時～6時にかかる時間

s ：週休2日の補正係数

週休2日の補正無し※現状の端数処理	週休2日の補正あり
補正式で計算した値に対し、 <u>円未満切捨ての端数処理</u> を行う。	補正式で計算した値に対し週休2日の補正係数を適用したあと、 <u>円未満切捨ての端数処理</u> を行う。

【補足説明：「労務調整係数を用いた割増」について】

例：夜間工事で 18～8 時の場合

	1.0	1.5		1.5	1.5 α	1.25 α		1.25 α
18	20	22	24	2	4	6		8
所定労働時間(2)		所定労働時間(6) + 休憩(1) 深夜割増			時間外(2) 深夜割増	時間外(2.5) + 休憩(0.5)		
← A 時間		← B 時間			← C 時間	← D 時間		
← A + B : 8時間(所定労働時間)								
← 8 - B		← 8 - A : h2時間(深夜割増)			← C + D : h1時間 (時間外 + 深夜割増、時間外)			
構成比 α	1.0	1.0			単価表	単価表		
割増値	1.0	1.5			1.5	1.25		

説明 1. 超過時間

h1及びh2はそれぞれ以下の内容を示す。

h1：所定労働時間外の超過時間（時間外）

h2：所定労働時間内の20時～6時にかかる時間

実労働時間が上の例の場合、h1は 4.5 時間、h2は 6 時間となる。

説明 2. 労務調整係数

積算上での労務単価は人日（8 h）として計上している。その為、割り増し（残業）分を含めた実労働時間が労務単価（所定労働時間）の時間にて何時間になるか計算し、実労働時間の時間にて時給を均し労務単価(所定労働時間)の時給の何倍になるか算出したものが労務調整係数となる。

この例の場合、労務調整係数の計算式は以下となる。

$$K = \frac{A \times 1.0 + B \times 1.5 + C \times 1.5 + D \times 1.25}{A + B + C + D}$$

K：労務調整係数

また、1 時間当りの労務割増の補正済み労務単価を t とすると、
1 時間当りの労務単価 r は $R/8$ より

$$t = r \cdot k = \frac{R}{8} \cdot k = \frac{R \cdot k}{8} \quad \dots \dots \textcircled{1}$$

R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

r ：1時間当りの労務単価

t ：1時間当りの労務割増の補正済み労務単価

k ：労務割増（1時間当たりの割増率）

労務割増の補正済み労務単価 T は、①より

$$T = 8 \cdot t = 8 \times \frac{R \cdot k}{8} = R \cdot k$$

T ：労務割増の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

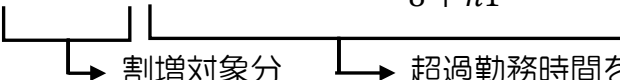
よって、労務調整係数を使用した単価補正の計算式は以下となる。

$$\begin{aligned} T &= R \cdot k \\ &= R \times \frac{A + 1.5B + 1.5C \cdot \alpha + 1.25D \cdot \alpha}{A + B + C + D} \\ &= R \times \frac{A + 1.5B + \alpha(1.5C + 1.25D)}{A + B + C + D} \\ &= R \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} + R \cdot \alpha \times \frac{1.5C + 1.25D}{A + B + C + D} \\ &= R \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} + R \cdot \alpha \times \frac{1.5C + 1.25D + (A + 1.5B) - (A + 1.5B)}{A + B + C + D} \\ &= R \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} + R \\ &\quad \cdot \alpha \times \left(\frac{A + 1.5B + 1.5C + 1.25D}{A + B + C + D} - \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} \right) \\ &= R \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} + R \cdot \alpha \times \frac{A + 1.5B + 1.5C + 1.25D}{A + B + C + D} - R \\ &\quad \cdot \alpha \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} \\ &= R \cdot \alpha \times \frac{A + 1.5B + 1.5C + 1.25D}{A + B + C + D} + (R - R \cdot \alpha) \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} \\ K &= \frac{A + 1.5B + 1.5C + 1.25D}{A + B + C + D} \text{ より} \end{aligned}$$

$$T = R \cdot \alpha \cdot K + (R - R \cdot \alpha) \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D}$$

$$C + D = h1、B = h2、A = 8 - h2 \text{ より}$$

$$\begin{aligned}
 T &= R \cdot \alpha \cdot K + (R - R \cdot \alpha) \times \frac{8 - h2 + 1.5h2}{8 - h2 + h2 + h1} \\
 &= R \cdot \alpha \cdot K + (R - R \cdot \alpha) \times \frac{8 + 0.5h2}{8 + h1} \\
 &= R \cdot \alpha \cdot K + (R - R \cdot \alpha) \times \frac{\left(1 + \frac{0.5}{8}h2\right) \times 8}{8 + h1} \\
 &= R \cdot \alpha \cdot K + (R - R \cdot \alpha) \times \frac{(1 + 0.0625h2) \times 8}{8 + h1}
 \end{aligned}$$



T ：夜間工事による割増後の労務単価（８時間当りの単価）

R ：労務単価（所定労働時間８時間当りの単価）

k ：労務割増（１時間当たりの割増率）

α ：割増対象賃金比（構成比）

K ：労務調整係数

$h1$ ：所定労働時間外の超過時間（時間外）

$h2$ ：所定労働時間内の２０時～６時にかかる時間

※以降の計算例において、0.5

/8 は計算済みの値「0.0625」と示す。

■労務費の補正についての計算例

名称：普通作業員

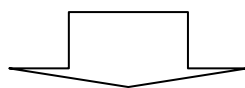
単価：26,500 円

割増対象賃金比：0.828

(1) 労務単価補正（昼間）

他の労務単価補正を行っていない状態から週休2日の補正()をおこなう場合。

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 R0102 普通作業員	人				
		100	26,500	2,650,000	



↓ 1.02 倍

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 R0102 普通作業員	人				
		100	27,030	2,703,000	

$$T' = R \cdot s = 26,500 \text{ 円} \times 1.02$$

$$= 27,030 \text{ 円} \quad \text{※少数点以下切り捨て}$$

T' ：週休2日の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

s ：週休2日の補正係数

- (2) 労務単価補正（「夜間工事による労務単価の割増」が一括割増の場合）
 一括割増の労務単価補正をおこなっている状態から週休2日の補正（週休2日達成率 100%）をおこなう場合

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00004 :夜 間 普通作業員 R0102					
	人	100	39,750	3,975,000	

$$T = R \cdot k = 26,500 \text{ 円} \times 1.5$$

$$= 39,750 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

T : 労務割増の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

R : 労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

k : 労務割増（1時間当りの割増率）（一括割増率）



↓ 1.02 倍

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00004 :夜 間 普通作業員 R0102					
	人	100	40,545	4,054,500	

$$T' = R \cdot k \cdot s = 26,500 \text{ 円} \times 1.5 \times 1.02$$

$$= 40,545 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

T' : 週休2日の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

R : 労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

k : 労務割増（1時間当りの割増率）（一括割増率）

s : 週休2日の補正係数

(3) 労務単価補正（夜間及び時間外）

労務単価補正をおこなっている状態から週休2日の補正（週休2日達成率100%）をおこなう場合。

	1.0	1.5		1.5	1.5 α	1.25 α		1.25 α
	18	20	22	24	2	4	6	8
	所定労働時間(2)	所定労働時間(6) + 休憩(1) 深夜割増			時間外(2) 深夜割増	時間外(2.5) + 休憩(0.5)		
	A時間	B時間			C時間	D時間		
構成比 α	1.0	1.0			単価表	単価表		
割増値	1.0	1.5			1.5	1.25		

h1、h2は以下となる。

h1：4.5h

h2：6.0h

また、上の場合の労務調整係数の算出結果は以下となる。

- ① 18:00～20:00（2h） $2 \times 1.0 = 2$ （所定労働時間）
- ② 20:00～03:00（6h） $6 \times 1.5 = 9$ （所定労働時間）（深夜割増し）
- ③ 03:00～05:00（2h） $2 \times 1.5 = 3$ （時間外）（深夜割増し）
- ④ 05:00～08:00（2.5h） $2.5 \times 1.25 = 3.125$ （時間外）

$$K = \frac{A + 1.5B + 1.5C + 1.25D}{A + B + C + D} = \frac{\text{①} + \text{②} + \text{③} + \text{④}}{A + B + C + D}$$

$$= \frac{2 + 9 + 3 + 3.125}{2 + 6 + 2 + 2.5} = 1.370 \text{（労務調整係数）}$$

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00005：労務調整(※) 普通作業員	R0102				
※係数(1.370), h1(4.5), h2(6.0)	人	100	34,071	3,407,100	

$$T = R \cdot \alpha \cdot K + \frac{(R - R \cdot \alpha) \times (1 + 0.0625h2) \times 8}{8 + h1}$$

$$= 26,500 \times 0.828 \times 1.370$$

$$+ \frac{(26,500 - 26,500 \times 0.828) \times (1 + 0.0625 \times 6) \times 8}{8 + 4.5}$$

= 34,071 ※小数点以下切り捨て

T ：夜間工事による割増後の労務単価（８時間当りの単価）

R ：労務単価（所定労働時間８時間当りの単価）

α ：割増対象賃金比（構成比）

K ：労務調整係数

$h1$ ：所定労働時間外の超過時間（時間外）

$h2$ ：所定労働時間内の２０時～６時にかかる時間



↓ 1.02 倍

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00005 : 労務調整(※) R0102 普通作業員					
※係数(1.370), h1(4.5), h2(6.0)	人	100	34,753	3,475,300	

$$T' = (R \cdot \alpha \cdot K + \frac{(R - R \cdot \alpha) \times (1 + 0.0625h2) \times 8}{8 + h1}) \cdot s$$

$$= 34,753 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

T' ：週休２日の補正済み後労務単価（８時間当りの単価）

R ：労務単価（所定労働時間８時間当りの単価）

α ：割増対象賃金比（構成比）

K ：労務調整係数

$h1$ ：所定労働時間外の超過時間（時間外）

$h2$ ：所定労働時間内の２０時～６時にかかる時間

s ：週休２日の補正係数

- (4) 労務単価補正（夜間及び時間外の補正済み単価の補正）
 (3) の単価を補正した場合。(例：単価補正：×1.25)

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00017 : 労務調整(※) R0102 普通作業員					単価補正：*1.250
※係数(1.370), h1(4.5), h2(6.0)	人	100	42,588	4,258,800	

$$T = R \cdot \alpha \cdot K + \frac{(R - R \cdot \alpha) \times (1 + 0.0625h2) \times 8}{8 + h1}$$

$$= 34,071 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

T ：夜間工事による割増後の労務単価（8時間当りの単価）

R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

α ：割増対象賃金比（構成比）

K ：労務調整係数

$h1$ ：所定労働時間外の超過時間（時間外）

$h2$ ：所定労働時間内の20時～6時にかかる時間

$$U = T \times (\text{単価補正}) = 34,071 \text{ 円} \times 1.25$$

$$= 42,588 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

U ： T の労務単価（8時間当りの単価）に補正した単価



↓ 1.02 倍

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00017 : 労務調整(※) R0102 普通作業員					単価補正：*1.250
※係数(1.370), h1(4.5), h2(6.0)	人	100	43,441	4,344,100	

$$T' = (R \cdot \alpha \cdot K + \frac{(R - R \cdot \alpha) \times (1 + 0.0625h2) \times 8}{8 + h1}) \cdot s$$

$$= 34,753 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

T' ：週休2日の補正済み後労務単価（8時間当りの単価）

R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

α ：割増対象賃金比（構成比）

K ：労務調整係数

$h1$ ：所定労働時間外の超過時間（時間外）

$h2$ ：所定労働時間内の20時～6時にかかる時間

s ：週休2日の補正係数

$$U' = T' \times (\text{単価補正}) = 34,753 \text{ 円} \times 1.25$$

$$= 43,441 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

$U' : T'$ の労務単価（8時間当りの単価）に補正した単価

摘要欄に「単価補正：*0.000」及び「単価補正：/0.000」の記載がある場合は、端数処理した補正済み単価に摘要欄の単価補正（小数点以下切り捨て）の計算をします。

2. 土木工事標準単価

土木工事標準単価は、工種毎に週休2日の補正係数が設定されており、補正単価は以下の式により算出しています。

$$X = Q_c \cdot s$$

X ：週休2日の補正済み土木工事標準単価(端数処理はしていません)

Q_c ：土木工事標準単価

s ：週休2日の補正係数

$$X' = X \times (\text{施工規模等補正})$$

小数第3位四捨五入2位止め(「施工規模等補正」を小数第4位四捨五入3位止めで端数処理した後、 X' を算出)

X' ：施工規模等補正済み単価(週休2日の補正済み市場単価)

3. 市場単価

市場単価は、工種毎に週休2日の補正係数が設定されており、補正単価は以下の式により算出しています。

$$Y = Q_k \cdot s$$

※ 土木工事標準積算基準書：端数処理はしていません

※ 港湾土木請負工事積算基準：小数点以下切捨て(鉄筋加工組立、吊鉄筋加工組立、吊鉄筋・吊バー組立：小数第3位切捨て2位止め)

※ 下水道用設計標準歩掛表：小数第3位切捨て2位止め

Y ：週休2日の補正済み市場単価

Q_k ：市場単価

s ：週休2日の補正係数

$$Y' = Y \times (\text{施工規模等補正})$$

※ 土木工事標準積算基準書：小数第3位四捨五入2位止め(「施工規模等補正」を小数第4位四捨五入3位止めで端数処理した後、 Y' を算出)

※ 港湾土木請負工事積算基準：小数点以下切捨て
(鉄筋加工組立：端数処理なし)

※ 下水道用設計標準歩掛表：小数第3位四捨五入2位止め(「施工規模等補正」を小数第4位四捨五入3位止めで端数処理した後、 Y' を算出)

Y' ：施工規模等補正済み単価(週休2日の補正済み市場単価)

4. 積上げ積算方式で単価が補正される労務費

積上げ積算方式で単価が補正される労務費について週休2日の補正係数を乗じた補正済み単価を算出しています。

労務費には入力条件や構成などにより単価が補正される WB コードがあります。つぎの計算例のように算出しています。

■週休2日の補正を適用した場合の計算例

労務に補正がある WB コード

WB コード：朝顔（床版補強工用）（WB431370）

条件区分：片側朝顔、朝顔架設供用月数 1 月

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00019 WB431370 朝顔(床版補強工用)					
[入力条件]…片側朝顔,【1 月】	m2	1,000	401	401,000	

片側設置の場合

補正済みの単価（両側設置の1／2）

	名 称	コ ード	① 単 価	② 片 側 設 置	片側設置の単価 (①×②)
労 務	橋りょう特殊工	R0122	34,200	0.50	17,100
					小数点以下切捨て

朝顔（床版補強工用）（片側設置）1 m2 当り単価表

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
橋りょう特殊工	人	0.022	17,100	376	(R0122) [1]
足場材損料	月	0.5	50	25	(Z004516002) [1]
諸雑費(まるめ) Σ[1]	式	1	0	0	(ZS3000004)
合計				401	
		1	当り	401	円/m2



↓ 1.02 倍（労務費）

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00019 WB431370 朝顔(床版補強工用)					
[入力条件]・・・片側朝顔,【1 月】	m2	1,000	408	408,000	

週休2日の補正済み単価

「補正対象」労務について、補正済みの単価

	名称	コード	① 単価	② 週休2日 補正係数	③ 週休2日 補正済み単価 (①×②)	④ 片側設置	片側設置 (週休2日補正) 補正済み単価 (③×④)
労 務	橋りょう特殊工	R0122	34,200	1.02	34,884	0.50	17,442
					小数点以下切捨て		小数点以下切捨て

週休2日の補正済みの朝顔(床版補強工用)(片側設置) 1 m2 当り単価表

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
橋りょう特殊工	人	0.022	17,442	383	(R0122) [1]
足場材損料	月	0.5	50	25	(Z004516002) [1]
諸雑費(まるめ) Σ[1]	式	1	0	0	(ZS3000004)
合計				408	
		1	当り	408	円/m2

5. 施工パッケージ型積算方式の積算単価

施工パッケージ積算単価 P' を算出する際の補正式では、「横浜市の積算年月における単価」に補正済みの労務費・土木工事標準単価を用いて算出しています。

【横浜市の積算年月における単価】

労務費： $R1t'$ 、 $R2t'$ 、 $R3t'$ 、 $R4t'$

機械賃料： $K1t'$ 、 $K2t'$ 、 $K3t'$ 、 $K4t'$

土木工事標準単価： $Q1t'$ ※土木工事標準単価のみ

構成比（％）： Kr 、 Rr 、 Zr 、 Qr

$$\begin{aligned}
 P' = P \times & \left\{ \left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \cdots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{Kr}{K1r + K2r + K3r} \right. \\
 & + \left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \cdots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{Rr}{R1r + R2r + R3r + R4r} \\
 & + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \cdots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + Z2r + Z3r + Z4r} \\
 & \left. + \left(\frac{Q1r}{100} \times \frac{Q1t'}{Q1t} \right) \times \frac{Qr}{Q1r} + \frac{100 - Kr - Rr - Zr - Qr}{100} \right\}
 \end{aligned}$$

凡例 ・・・週休2日の補正済みの値

P' ：積算単価（横浜、積算年月）

P ：標準単価（東京地区、基準年月）

市場単価を含む施工パッケージについては、市場単価は週休2日の補正対象外であるため、 $Q1t'$ は補正されない。

■週休2日の補正を適用した場合の計算例

昼間（労務の夜間割増無し）

夜間割増をおこなっていない状態から週休2日の補正（週休2日達成率100%）をおこなう場合。

施工パッケージ名称：L型擁壁（CB226350）

条件区分：24-12-25(20) (高炉)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満
基礎碎石有り、均しコンクリート有、一般養生、
圧送管延長無し

標準単価：71,165 円

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00021 CB226350 L型擁壁	m ³				
[入力条件]・・・24-12-25(20) (高炉), 0.08t/m ³ 以上0.10t/m ³ 未満, 標準(1.0), 有り, 有り, 一般養生, 延長無し		100	73,720	7,372,000	

週休2日の補正前のL型擁壁（CB226350）の代表規格・構成比

	規 格	コ ード	構 成 比 (%)	東京単価 (円)	横浜単価 (円)	補正対象
K			1.42	-	-	
K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力90～110m ³ /h	M000903010	0.94	52,800	52,800	
K2						
K3						
K4						
R			45.46	-	-	
R1	普通作業員	R0102	14.33	25,400	26,500	○
R2	型わく工	R0133	8.0	30,000	31,300	○
R3	土木一般世話役	R0125	3.92	31,000	32,600	○
R4	とび工	R0106	2.63	31,200	32,700	○
Z			44.90	-	-	
Z1	生コンクリート 24-12-25 (20) 高炉	Z002012005	29.23	20,400	22,200	
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16～25	Z001102020	15.5	119,000	111,000	
Z3	軽油	Z006702002	0.11	138	148	
Z4						
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	Q001001002	8.22	65,000	65,000	

※ 機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮想の単価とする。

$$P' = 71,165$$

$$\begin{aligned} & \times \left\{ \left(\frac{0.94}{100} \times \frac{52,800}{52,800} \right) \times \frac{1.42}{0.94} \right. \\ & + \left(\frac{14.33}{100} \times \frac{26,500}{25,400} + \frac{8.00}{100} \times \frac{31,300}{30,000} + \frac{3.92}{100} \times \frac{32,600}{31,000} + \frac{2.63}{100} \times \frac{32,700}{31,200} \right) \\ & \quad \times \frac{45.46}{14.33 + 8.00 + 3.92 + 2.63} \\ & + \left(\frac{29.23}{100} \times \frac{22,200}{20,400} + \frac{15.50}{100} \times \frac{111,000}{119,000} + \frac{0.11}{100} \times \frac{148}{138} \right) \\ & \quad \times \frac{44.90}{29.23 + 15.50 + 0.11} \\ & \left. + \frac{8.22}{100} \times \frac{65,000}{65,000} + \frac{100 - 1.42 - 45.46 - 44.90 - 8.22}{100} \right\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} = & 71,165 \times \{ (0.00940) \times 1.51064 \\ & + (0.14951 + 0.08347 + 0.04122 + 0.02756) \times 1.57410 \\ & + (0.31809 + 0.14458 + 0.00118) \times 1.00134 \\ & + 0.08220 + 0.00000 \} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} = & 71,165 \times (0.00940 \times 1.51064 + 0.30176 \times 1.57410 + 0.46385 \times 1.00134 \\ & + 0.08220 + 0.00000) \end{aligned}$$

$$= 73,720 \text{ (円/m}^3\text{)} \quad \text{※有効数字4桁、5桁目以降切り上げ}$$



↓ 1.02 倍 (労務費)

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00021 CB226350 L型擁壁	m ³				
[入力条件]・・・24-12-25(20)〈高炉〉, 0.08t/m ³ 以上0.10t/m ³ 未満, 標準(1.0), 有り, 有り, 一般養生, 延長無し		100	74,400	7,440,000	

週休2日の補正済み単価

「補正対象」賃料及び労務について、補正済みの単価

	規格	コード	① 横浜単価	② 週休2日 補正係数	週休2日の 補正済み単価 (①×②)
R1	普通作業員	R0102	26,500	1.02	27,030 小数点以下切捨て
R2	型わく工	R0133	31,300	1.02	31,926 小数点以下切捨て
R3	土木一般世話役	R0125	32,600	1.02	33,252 小数点以下切捨て
R4	とび工	R0106	32,700	1.02	33,354 小数点以下切捨て

週休2日の補正済みのL型擁壁（CB226350）の代表規格・構成比

	規格	コード	構成比 (%)	東京単価 (円)	横浜単価 (円)	補正対象
K			1.42	-	-	
K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力90～110m ³ /h	M000903010	0.94	52,800	52,800	
K2						
K3						
K4						
R			45.46	-	-	
R1	普通作業員	R0102	14.33	25,400	27,030	○
R2	型わく工	R0133	8.0	30,000	31,926	○
R3	土木一般世話役	R0125	3.92	31,000	33,252	○
R4	とび工	R0106	2.63	31,200	33,354	○
Z			44.90	-	-	
Z1	生コンクリート 24-12-25 (20) 高炉	Z002012005	29.23	20,400	22,200	
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16～25	Z001102020	15.5	119,000	111,000	
Z3	軽油	Z006702002	0.11	138	148	
Z4						
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	Q001001002	8.22	65000	65000	

$$P' = 71,165$$

$$\begin{aligned} & \times \left\{ \left(\frac{0.94}{100} \times \frac{52,800}{52,800} \right) \times \frac{1.42}{0.94} \right. \\ & + \left(\frac{14.33}{100} \times \frac{27,030}{25,400} + \frac{8.00}{100} \times \frac{31,926}{30,000} + \frac{3.92}{100} \times \frac{33,252}{31,000} + \frac{2.63}{100} \times \frac{33,354}{31,200} \right) \\ & \quad \times \frac{45.46}{14.33 + 8.00 + 3.92 + 2.63} \\ & + \left(\frac{29.23}{100} \times \frac{22,200}{20,400} + \frac{15.50}{100} \times \frac{111,000}{119,000} + \frac{0.11}{100} \times \frac{148}{138} \right) \\ & \quad \times \frac{44.90}{29.23 + 15.50 + 0.11} \\ & \left. + \frac{8.22}{100} \times \frac{65,000}{65,000} + \frac{100 - 1.42 - 45.46 - 44.90 - 8.22}{100} \right\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} = & 71,165 \times \{ (0.00940) \times 1.51064 \\ & + (0.15250 + 0.08514 + 0.04205 + 0.02812) \times 1.57410 \\ & + (0.31809 + 0.14458 + 0.00118) \times 1.00134 \\ & + 0.08220 + 0.00000 \} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} = & 71,165 \times (0.00940 \times 1.51064 + 0.30781 \times 1.57410 + 0.46385 \times 1.00134 \\ & + 0.08220 + 0.00000) \end{aligned}$$

$$= 74,400 \text{ (円/m}^3\text{)} \quad \text{※有効数字4桁、5桁目以降切り上げ}$$

6. 間接工事費における週休2日の補正の計算

週休2日を実施する工事において、間接工事費（共通仮設費率及び現場管理費率）に対して補正を行っています。

（1）共通仮設費率

共通仮設費に乘じる週休2日の補正係数

補正時の共通仮設費率計算式

① 共通仮設費率（補正前）

現行積算基準に基づいて共通仮設費対象額によって算出された率

$$Kr = A \cdot P^b \text{（小数点第3位四捨五入2位止め）}$$

Kr ：共通仮設費率（％）（補正前）

P ：共通仮設費対象額 A, b ：工種毎に決まる係数

② 共通仮設費率（施工地域及び加算率の補正後）

$$Kr' = Kr \cdot Sr + x \text{（小数点第3位四捨五入2位止め）}$$

Kr' ：共通仮設費率（施工地域補正後）（％）

Kr ：共通仮設費率（補正前）（％）

Sr ：施工地域補正係数

x ：加算率補正（％）（補正を行わない場合は、 $x = 0.00\%$ ）

③ 共通仮設費率（週休2日の補正後）

$$Kr'' = Kr' \cdot Tr \text{（小数点第3位四捨五入2位止め）}$$

Kr'' ：共通仮設費率（週休2日の補正後）（％）

Kr' ：共通仮設費率（週休2日の補正前）（％）

Tr ：週休2日の補正係数（補正を行わない場合は、 $Tr = 1.0$ ）

(2) 現場管理費率

現場管理費に乘じる週休2日の補正係数

補正時の現場管理費率計算式

① 現場管理費率（補正前）

現行積算基準に基づいて現場管理費対象額によって算出された率

$$Jo = A \cdot Np^b \text{（小数点第3位四捨五入2位止め）}$$

 Jo ：現場管理費率（％）（補正前） Np ：現場管理費対象額 A, b ：工種毎に決まる係数

② 現場管理費率（施工地域及び加算率の補正後）

$$Jo' = Jo \cdot Sr + y \text{（小数点第3位四捨五入2位止め）}$$

 Jo' ：現場管理費率（施工地域補正後）（％） Jo ：現場管理費率（補正前）（％） Sr ：施工地域補正係数 y ：加算率補正（％）（補正を行わない場合は、 $y = 0.00\%$ ）

③ 現場管理費率（週休2日の補正後）

$$Jo'' = Jo' \cdot Tr \text{（小数点第3位四捨五入2位止め）}$$

 Jo'' ：共通仮設費率（週休2日の補正後）（％） Jo' ：共通仮設費率（補正前）（％） Tr ：週休2日の補正係数（補正を行わない場合は、 $Tr = 1.0$ ）